

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0859100048		
法人名	社会福祉法人 木犀会		
事業所名	花水木岩瀬館	ユニット名(大地)	
所在地	桜川市岩瀬229-1		
自己評価作成日	令和 3年 月 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.mokusei-grp.jp/contents/senior_support/hanamizuki-i.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様一人一人に寄り添った支援を心掛け要望に応じて支援をおこない、高齢者の生活に時間に合わせゆったりとした時間が流れていると思います。それぞれに合ったレクや役割をさがし工夫して対応することで達成感や安心感を得られている様子があります。花水木岩瀬館カフェの開催でもてなし感を体験したり もてなされたりといつも違った雰囲気の中でお茶を楽しんでいます。出来れば地域の方々をお誘い出来るようにしていきたいと考えています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念や事業所理念を会議等で復唱するなど理解を図り これらの理念に基づいた支援につながるようになっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区会員となり子供100当番を継続 下校時の子供たちと交流することもある。地域イベントや学校でのイベントに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして、桜川市認知症サポーター事業に参加 高齢者支援事業等で認知症の啓発活動を行っている。(コロナ禍により参加が減少)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回地区の代表 民生委員 家族様代表 利用者様代表 悔悟保険課職員の参加のもと 入居者情報 活動報告 行事見学 要望など話し合い意見を頂いている コロナ禍により、昨年度より紙面での開催実施		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や公的福祉サービスとの連携をとっている。(介護保険課 地域包括支援センター 社会福祉課 社会福祉協議会など)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会開催 拘束の内容について日頃何気なくお行っている支援を再度検討課題に提示して日頃の支援の振り返り実施 例(スピーチロックについて)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正委員会を通し虐待防止についての意識を深め事業所内、また施設外でも虐待が三位逃されないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者 介護支援専門員が権利擁護に関する制度を学び またパンフレットなどを利用し必要に応じてご家族や職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時 理解しやすく丁寧な説明に心掛け、質問を受けるなどして同意して頂き契約の締結をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議出の要望や外部評価の家族アンケートを参考にしている。特に外部評価のアンケートに関しては全職員が結果を共有し支援に繋げている。家族会等で意見交換実施また家族へ電話にて近況連絡 意見を頂いたりしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、全職員に意向調査年1回実施 管理者は各種会議開催時や支援援助に入り意見等聞くまた面談等で意見を取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則 給与規定等の完備している。 法人内でWEB研修用機材の整備あり 今後の研修に使用可能となる 法人独自の永年勤続表彰やコロナ予防対策慰労金の支給するなど働きやすい環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々合った研修への参加を目指している 外部の研修予定 参加後伝達研修実施 WEB研修にて研修参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の高齢福祉事業所との交流があり研修や見学等実施している。地域交流はケアマネ会参加 サポーター養成講座参加やまた電話等でも交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の事前調査や家族様の意見等を確認。アセスメントをしっかり行うことで利用者様の安心できる支援に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者 介護支援専門員 計画作成担当者職員が連携し、ご家族様利用者様の要望に耳を傾けることにより意見交換をして関係性を構築している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前見学や事前調査の際、GHの説明を行い入所者様の安心安全な生活その方らしい生活ができるか考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりを理解し認め合いともに生活するものとして、思いやりの気持ちを持ち、ともに楽しめるような支援を心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族様に手紙で日頃の様子を伝えている。体調の変化等あった場合は電話にて連絡するなど家族様と連携を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でご近所の友達等の面会ができなくなっている。市内の名所の写真を張りし思い出し出してもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気心の会った利用者様同士で会話を楽しんだり 職員が間に入り会話を盛り上げている。生活リハビリの中でお互いにお礼を伝えるなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様に手紙を出したり、その後の様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添い合いながら本人の希望の把握に努めて本人の意思の尊重に努めている。カンファレンス会議、申し送りノートにて職員の意識共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や本人家族これまでに関係のあった機関より、情報得るなど生活環境の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援を行いながら一人一人に合った生活リハビリへの参加して頂き能力を引き出す支援を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議や職員から意見を取り入れる。面会時やプランの説明の際家族より意見をもらい考慮したプラン作成に努めている。居室担当職員やカンファ等でモニタリングしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をPCへ記入と変更した。些細な事でも記入することが多くなった。職員間の申し送りや昼礼の際 会議等で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援が出来ない中 岩瀬館カフェの開催によりメニューから好きなものを選んだりおもてなし おもてなししてもらおう環境の変化を楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出やボランティアの方が来れない状況である季節の食材や草花を持ち寄り会話を楽しむ 味わうように務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月2回の往診 訪問看護毎週あり 医療機関と連携をたもち、受診後の結果を家族に報告、相談を行っている本人家族の希望に添った対応を考えている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護があり、相談等出来ている 24時間オンコール体制であり体全体を観察して頂き職員では把握しきれないところをカバーしてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報の提供を行っている。入院の際は看護師 ソウシャルワーカーと連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」の説明をしている。その時期か来た時に再度主治医から説明をもらい改めて看取りに関する同意をもらっている。訪問看護 医療機関 家族との連携強化している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	WEB研修にて研修受講 外部研修が出来なかった		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練実施 コロナ禍で消防署の立ち合い無 通報訓練実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修 身体拘束適正委員会などで声掛けの大切さ 尊重することの大切さを学び機会を設けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話をしながらや状態を確認し希望を聞く 選択できる機会を作る支援を考えている。 意向尋ねてから1つ1つの支援をするよう努めてる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりした時間の中で生活している利用者様に合わせ 希望が表出できるまで待つて支援している。話したくなるような雰囲気づくりに努めてる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装の把握に努め本人の意見を聞いている。クリームを顔につける等元気な頃していた事を尊重し好きなようにしてもらおう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食べて頂けるよう盛り付けの工夫や支援をしている 食後は食器拭きを皆様で行っています。一人一人の状態あわせ食べやすく より美味しく召し上がって頂く。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の把握必要な方には記録しながら必要量を摂取しても来工夫。本人の状態に合わせて栄養管理を行い身体に負担のならないよう健康管理に努めています。時間、味、量など観察し摂取意欲がでるよう工夫してる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施 訪問歯科あり また 歯科研修実施。その人に合ったケアの実施方法を聞いて参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツから布パンツへの変更実施 出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。排泄パターンの把握しながら誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動を心掛け 服薬は医療機関と連携をとりその方の排泄リズムを考えて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は決まってしまうが 本人の希望を取り入れ、その方に合った支援をしながら入浴してもらっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠できるよう日中の活動を活発に取り入れ日光浴 体操など取り入れている。午後は、30分から1時間の静養を取れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬して頂くようダブルチェックをして服薬セット 服用時は必ず声に出し日に名前確認、飲み込み確認している。薬の変更があった時は申し送りノートに記入して職員全員は把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付け食器拭きを役割として行ってくださっています。本人の希望があり家族様はおやつを持参好きな時に召し上がっています。 カフェの開催時 ウエイター ウエイトレスをしてくださる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出支援が出来ない。出来れば季節感を実感できる外出支援を行いたい地域で行われるイベントに参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお遣いを持参している方はいませんが、預かり金(小遣い)があり、買い物等一緒に言った場合は支払いをしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、自由に対応しています 返事を書くことができない方は、毎月の手紙で様子を伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には季節感の感じられる掲示物や地元の有名な観光名所の写真を掲示したり、季節の草花を飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室 共有スペースには、気の合った方々同士がくつろげるスペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人 ご家族様と相談しながら自宅で使っていた物を用意していただけるよう支援している。居室担当職員とともに利用者様が居室の整理を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心安全な場となるよう工夫している。居室にタイムスケジュールを張り声掛けしたり、トイレの場所が分かるよう大きな文字で張り、状態に合わせ支援している		